

# プロジェクト研究『結腸癌の至適腸管切離長に関する前向き研究』

## 第1回会議(平成24年1月17日)

委員長 防衛医科大学校外科 長谷 和生

プロジェクト委員：池 秀之、井上靖浩、遠藤 格、大植雅之、金光幸秀、亀岡信悟、絹笠祐介、久須美貴哉、斎藤典男、佐藤敏彦、白水和雄、杉原健一、高橋慶一、八岡利昌、橋口陽二郎、正木忠彦、矢野秀朗、山田一隆、上野秀樹(事務局)

### ■ 本プロジェクト研究発足の背景

結腸癌の切離腸管長に関して、本邦では切離端までの距離を10cm確保する“10cmルール”が腸管切離レベルの基準とされてきたが、大腸癌取扱い規約第7版において、支配動脈の分布を基準に領域リンパ節が規定され、これに応じた腸管切離レベルが設定された。しかしながら、規約第6版までの“10cmルール”を凌駕する意義があるかの検証は行われていない。また最近では、切離腸管長は“10cmルール”や規約第7版の規定よりよりもさらに短縮が可能との意見もあり、本研究会リンパ節検討委員会においても検討が行われている。翻って海外の状況をみるに、腸管傍の領域リンパ節の範囲はTNM分類にも明記されていない。米国のguidelineの一部には5cmの切離marginで良いであろうとする記載がある一方で、欧州での切離腸管長は、一般に本邦より長い傾向にあることが報告されている。

このように結腸癌の至適切離腸管長に関する世界的なconsensusは得られていない状況にあり、質の高い臨床研究が求められている。

### ■ 研究の目的

本プロジェクト研究では、結腸癌における領域リンパ節の範囲を明らかにして、至適切離腸管長の基準を確立することを目的とする。本研究の成果は大腸癌取扱い規約や大腸癌治療ガイドライン改定の資となることが期待される。

### ■ 第1回会議での検討事項

本プロジェクト研究開始に臨み、その方向性と研究計画が議論された。大腸癌症例の臨床情報を集積し分析する、予定研究期間3年の前向き19施設共同研究であること、遺伝情報の情報収集は行わないこと、倫理的事項に問題がないことが確認された。この上で具体的な対象症例および集積データ内容を含む、研究の方法論を決定した。

### ■ 今後の予定

第1回会議の決定事項に基づき、大腸癌研究会倫理委員会に研究計画書を提出する。大腸癌研究会倫理委員会および各施設の倫理委員会での審議、承認の過程を経たうえで症例の集積を開始する予定である。